



きれいなクレマチスの花
日本のカザグルマが原種と思われます 平尾 隆

今月のテーマは「知ってほしい予防救急～こども編」と「相模原市健康づくり推進条例を制定しました」です。子供の事故は知識があれば防げるものが多いようです。また、自身の状態に応じた健康づくりが大切です。ぜひご一読ください。

知ってほしい「予防救急」

～こども編～

予防救急とは

ケガや病気の中には、少しの注意や心がけで防げるものがあります。救急車を呼ばなくてはならないようなケガや病気をしないよう、日頃から気を付けるポイントを知り、意識して行動することを「予防救急」と言います。

知ってほしい理由

「予防救急」の意識を高めることで、ケガや病気を未然に防ぎ、ご自身や大切なご家族が安全で健やかな生活を送っていただきたいと願っております。また、予防できるケガや病気を防いでいただくことは、救急出場件数が増加し続ける昨今、限られた資源である救急車が、一刻を争う危険な状態の人のところへすぐに駆けつけられることにつながります。

どうしたら防げるか～救急現場からわかったこと～

救急車が必要となるような事故はどこでどうして起きているのか、実際の救急事案の傾向から、予防方法を考えることができます。今回は0歳から6歳までのこどものケガに着目しました。

■救急車を呼んだ理由

令和4年中の0歳から6歳までのこどもについての救急出場件数は、約2,400件でした。そのうち急病を理由とした救急要請は68%、一般負傷（火災や交通事故等以外で起きた不慮の事故）は19%、交通事故は2%でした。（図1）

■ケガ（一般負傷）の起きた場所

令和4年中の0歳から6歳までのこどもの一般負傷事案の発生場所は住宅が76%、その他が24%でした。（図2）救急車を呼んだ一般的なケガの多くが家庭で起きていることが分かります。

図1 0歳から6歳までのこどもの救急要請理由

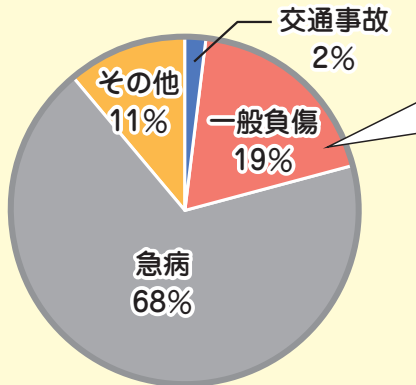
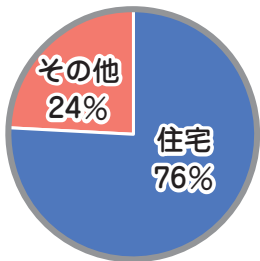


図2 一般負傷の発生場所内訳



■家庭で起きたケガ（一般負傷）の内訳

家庭で起きたケガのうち、頭部が40%、顔面部が18%と、首より上のケガが過半数を占めました。（図3）

■実際の事故事例

○転倒や転落

- ・3か月女児 ベビーベッドから落ち頭部に血腫あり
- ・1歳男児 ソファから落下し頭部打撲
- ・2歳女児 階段で転倒し顔面負傷
- ・5歳男児 テレビ台で頭部打撲 出血あり

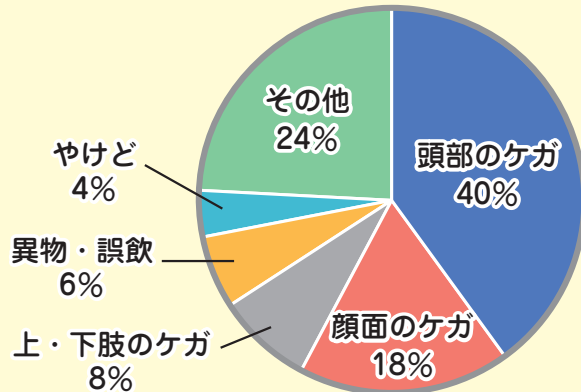


○異物・誤飲

- ・10ヶ月男児 タバコの誤飲 嘔吐
- ・1歳女児 指輪を飲み込んでしまった
- ・2歳男児 鼻にブロックが入ってしまった
- ・3歳男児 左耳にビーズ（3mm～5mm）が入ってしまった



図3 家庭で発生したケガの内訳



■予防のための対策

こどもは体の大きさに比べて頭が大きく重心の位置が高いため、頭部から落下しやすく、思わぬところに登ろうとしたりいろいろな遊び方をしたりすることが事故のきっかけになります。

対策としては、対象年齢に合った転落防止用の柵やベビーゲートを使用し、登ったり乗り越えたりできるようになる頃には取り外すこと。また、小さなこどもだけで過ごすことがないようにし、危険な遊び方をさせないこと。家具の角にクッション材を取り付けることも良いでしょう。

また、こどもの口に入る大きさ（直径約4cm未満）のものは、手の届く範囲に置かないこと。手の届く範囲は成長によって変化していきますので、家具や棚におもちゃなどを置き、どこに置くとこどもの手が届くのか、実際に確認してみることも良いでしょう。

おわりに

こどもの事故は似たようなものが繰り返し起きています。過去に起きた事例を参考に、まずは家庭内の環境を見直すところから予防救急を始めましょう。

（相模原市消防局 救急課）

